

4-1 2019年度公立入試に向けて傾向と対策

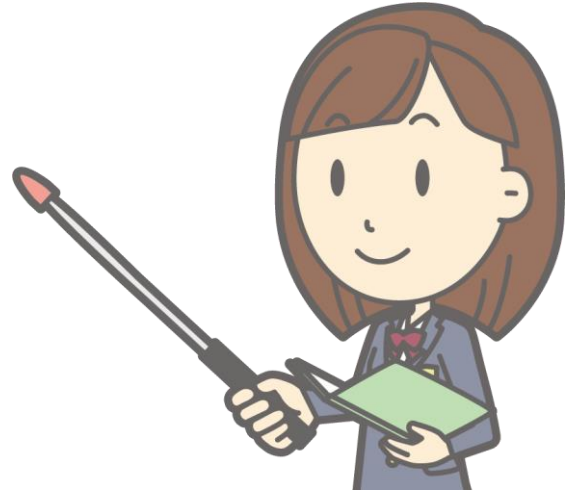
◆国語 「言語事項・古典の対策にも力を入れる!」

夏までに 漢字を含む**言語事項の対策**を今すぐスタートしましょう。
直前期まで**継続的に**知識を習得することが重要です。
漢字検定などを併用すると効果的です。

9～12月 読解問題対策に加えて、**古典対策**も力を入れるタイミングです。**いかに多くの問題をこなしたか**が勝負になるので、できるだけ多くの問題に触れる必要があります。

冬～直前 **入試と同形式の問題**で**実戦力**をつける学習が必要です。高得点のカギを握る**記述問題**や**作文**は特に重点的に対策しておかなければなりません。

まとめ 難関校を目指すなら**「記述問題」対策**に重点を置いた学習が必須です。平均点を目指すなら「言語事項」「記号問題」での**失点をいかに減らすか**という点に重点を置く必要があります。



◆数学 「段階を追って力をつけていくことが重要!!」

夏までに 既習内容の**基礎を徹底**し、**典型題を確実に**解けるようにしなければなりません。計算問題や1行問題の繰り返しが大切です。

9～12月 必出の**「2次関数」「相似」「三平方の定理」**の定着と**入試数学への慣れ**に重点を置いた学習が必要です。

冬～直前 入試問題の類題を繰り返し、**得点力をアップ**させることが重要です。**「学力検査問題の大問1」は全問正解**を目標として設定しましょう。「学校選択問題」の受験生は**「図形」「2次関数」を重点的に**対策する必要があります。

まとめ 学力検査は**基礎力**を強化し、確実に得点することが最重要課題です。難易度の高い学校選択問題は**「記述」「数の性質」「2次関数」**がカギを握るため、多くの問題に触れ、“解く力”をつける必要があります。



◆英語「文法力・語彙力をつけ、“書く力”を養う!!」

夏までに 基本的文法と単語の習得が最重要課題です。短めの文章で単語補充、内容把握、英問英答などの設問に慣れて、**英文読解の対策もスタート**させる必要があります。

9～12月 “書く”ことに重点を置いた**入試対策**を行うタイミングです。「学校選択問題」の受験生は“読解力”の養成もこの時期に行わなければなりません。他県入試にも積極的にチャレンジし、**実力養成をはかり**ましょう。

冬～直前 入試と同形式の問題で入試の英語に慣れることが必要です。「学校選択問題」の受験生は「**長文読解**」と「**英作文**」に重点を置いた対策が欠かせません。

まとめ 文法力、語彙力がカギを握るのが入試です。「**空所補充**」「**英作文**」などの記述問題が**得点で差をつける**キメテとなります。学校選択問題の長文読解、記述対策、作文対策には他県入試を利用しましょう。

